

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503908		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花上野幌館(1階)		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条4丁目2-1		
自己評価作成日	平成 25年 1月 14日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0170503908-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503908-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で穏やかな雰囲気によって円満な安定した生活が送れるように心掛けています。日々、清潔を保つことで環境を整え感染予防にも配慮された空間作りに努めている。地域との交流にも力を入れ、夏祭りに参加させて頂き出店を行う、盆踊りを踊るなどしている。地域の幼稚園とも交流があり、毎年可愛いお客様を数日に分けてお招きし、入居者様の素敵な笑顔と交流が見られている。建物の造りが全体的に広く、採光も確保されており、ゆったりと気分良く過ごして頂ける空間となっている。春から秋にかけては、狭いが畑を耕し野菜を栽培し、収穫して料理したものがお膳についたり、おやつに出たりと様々な楽しんで頂いている。初冬には昔の馴染み深い漬物作りも行い、季節の味を楽しんで頂いている。年末には貸し切りバスで大通りのイルミネーションの賑やかで華々しい街の様子を楽しんで頂いたり入居者様の身体状況等に合わせながら、様々な行事の企画を取り入れている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 7日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が行うケア理念の実践については、毎日日替わりにケア理念の項目を取り上げ重点的な実践かつ、どのように実行されたか、問題はなかったのかなど事後の検証に時間を割いており、サービスの質の向上に役立てています。地域の住民が災害時への備えとして発足した「ご近所顔合わせ会」に進んで出席するなど地域との絆を強固にする努力をしています。事故を未然に防ぐ対策として「ひやりはっと」の記載方法が秀でています。利用者の暮らしの中から「・・・おそれがある」事項の発見に努めると共に、細やかな記載に基づく異変等の気づきにより、事故等を未然に防ごうとする強い姿勢が覗えます。日常的な外出の支援では、利用者みんなで行動するドライブなどの他、個人の外出への積極的な支援を見ることが出来ます。大好きな喫茶店でのひと時、また、地域のカラオケサークルに参加するなどの送迎に職員の温かな支援が継続されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	統一されたホーム理念、ケア理念をスタッフ室や管理者室に掲示している。常にネームプレート裏に携行し、いつでも確認できるようにしている。業務日誌に日替わりで上から順に一項目毎、当日の目標として記入し、評価を行い意識するようにしている。	職員は、7つのケア理念(約束ごと)の確実な実践を期するため、各自のネームプレート裏に掲示しています。そして、職員は毎日ケア理念の各項目を取り上げ切磋琢磨しながら行動をして必ず検証を行っています。優れた日々が継続されており、このことは評価されることです。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年町内会の夏祭りや清掃へ参加している。運営推進会議や避難訓練には毎回参加を頂いている。東北大震災の教訓より地域の協力手段の手始めとして「ご近所同士顔見知りの関係から」という趣旨で町内会より会合のご案内を頂き、参加させて頂いた。	運営者が特に力を入れている地域との結び付きが、このホームでも遺憾なく実行されています。町内会の深いご理解のもと、町内会の諸行事には進んで参加しながら地域の一人としての取り組みが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会を通して定期的に日々の状況や対応方法等を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動報告、災害時対応、感染予防や対処方法等の説明を行い意見交換を行っている。災害時のいざという時は消防車到着を待つよりもご近所の協力がとても大事という意見と頂き、普段より率先して挨拶を行ったりご近所付き合いに努めている。	運営推進会議では、豊富な報告に基づく内容で特に災害に対する協議、また、感染予防に関して内容などタイムリーかつ関心の高い案件が議題とされています。しかし構成メンバーでは、家族の方々の出席が少なく、また、報告に終始している傾向にあります。	家族の方々の出席をより多くしながら、利用者を支えあうサービスの質の向上に協働できる会議への取り組みが期待されます。また、会議が単に報告だけで終わることなく出席メンバーの意見、提案が盛んに行われる会議となることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議を通じて情報交換を行い協力関係を築けるように努めている。業務で必要な書類、手続きなど不明な点を担当者にその都度相談させて頂くように努めている。	行政とのつながりは、主に地域包括支援センター職員を通じた連携となっていますが、これからは行政担当者も加えた連携により事業所サービスの一層の向上を図るよう検討することとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加しており、マニュアルを通じて定期的に行われるスタッフ会議にて伝え、再確認し理解を深めている。日常業務の中で職員同士で話し合うことも行っている。	身体拘束をしないケアの実践では、外部研修の受講を踏まえ、スタッフ会議でも度々取り上げながら確認及び徹底化を図っています。日常的には利用者への温かみのある言葉かけに配慮をしています。玄関など入り口にはドアの開閉を優しく知らせる鈴が付けられ、施錠のない暮らしへの配慮が見られます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の虐待の研修に参加しており、マニュアルを通じて定期的に行われるスタッフ会議にて伝え、再確認し理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	札幌市主催で行われた権利擁護の研修に参加し、スタッフ会議を通じて伝えている。該当者はいないが知識として得ることができたので、今後該当者が出たなら活用できるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、十分な時間を設けご説明と質疑応答を行うようにしている。また、入居後、面会時や電話等で不安の訴えや質問があった時は、その都度即対応を行うようにして、理解・納得を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議や家族会を開催し、意見や質問を頂き運営に反映できるように努めている。また面会時等でも意見や質問があった時は、即対応するように努めている。	年に1回開催される「家族会」にはたくさんの家族が出席され、利用者と共に楽しい時間を過ごしています。また、家族の訪問の際にはできるだけ家族との意見交換や提言などを頂いて運営に反映するように努めています。これからは「意見箱」の有効活用に加え、家族の意見をこれまで以上に頂く方策を検討することとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議を開催し意見や提案を聞く機会を設けている。またスタッフ会議以外でも日々の業務の中で意見や提案を受け付け、その都度スタッフ間で話し合っ運営に反映させている。意見や提案が言いやすいように環境改善に努めている。	毎月開催されるスタッフ会議では、サービス支援の気付きや行事に対する反省、アイデアなど活発な意見の交換が行われています。本部からも担当課長の出席、また運営者である社長も度々参加するなど、職員を中心とした風通しの良い会議を覗くことができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表や管理者からの報告にて努力や状況を把握している。賞与時や年末年始は必ず各事業所に出向き、1人ずつ日々の勤務状況を労いながら明細書を手渡しして下さっている。職場環境整備については管理者より意見や要望を必要時、定期的に関き入れ対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では管理者会議、リーダー会議、スタッフ会議、新人研修を通じ、毎月一度定期的に機会を設けている。外部研修は、ほぼ毎月参加させて頂きケアの質の向上に努めている。職員のスキルに合った研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区グループホーム協会連絡会に参加し、研修を重ね、他館の管理者などとネットワークができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に必ず面談を行い馴染みの関係を築くようにしている。またご家族やご本人からの情報または以前利用されていたサービス事業者からの情報を基に、サービス開始時よりご本人が安心できるようなケアプランを立案させて頂き、スタッフ間で統一したケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時必ず面談を行い、意見や要望、不安事等話し合いを重ねながら情報を頂くように努めている。入居後は面会や電話があった時など、生活状況を詳細に説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や面会時等から、本人やご家族からの意見や要望、入居前に頂く情報を基に必要としている支援を見極めさせて頂き対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様お一人おひとりの生活リズムを尊重し、できることできないことを見極めながら、共同生活を行う者同士としてお互い様精神で協力し合えるような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時等はご本人の生活状況や受診状況をお伝えし情報共有を図るようにしている。また特に入居されたばかりの入居者様ご家族には、なるべく頻回に面会に来て下さるようご説明を行い理解を求めている。心のケア等でご家族が適していると考えられる時はご相談させて頂くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居前に利用されていた高齢者住宅の複数のお友達が面会に来て下さった時は快くお迎えし対応している。また、子育て時代からの古い友人からお手紙や小包が届くなどあった場合は、即ご家族にご報告を入れる等、馴染みの関係が継続できるように支援している。	利用者のこれまで歩んできた暮らしの中で、馴染みの人、趣味などできるだけ把握しながら大切にしています。折角訪れてくださった知人へのもてなし、また、地域の老人クラブで行われているカラオケサークルへの参加支援など、利用者の笑顔が生まれる機会作りへの継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の個々の特徴や性格、関係性に配慮しながら、円満な関係を維持できるよう食事席を工夫している。また、個別レクや集団レク等もできること、できないことを配慮し工夫しながら支援に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様にホームで過ごした頃の写真や馴染みの物をご家族にお渡しすると大変喜ばれた。入居中ご家族がダスキンの仕事をしておりホームで活用していたが、退去後も継続し毎月取り替え時期には様子を伺ったりしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングで職員間が意見交換を行い、入居者様やご家族の意向の把握に努めている。また朝夕の申し送りなどを活用し、必要時はその都度ご本人の状況に応じ意見交換を行い把握に努めている。	日々のモニタリングでの些細な発見も、職員間で共有しながら利用者の思いや意向の把握に努めています。担当の職員からの情報は利用者の暮らしをより豊かなものにしていきます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に生活歴の基本情報シートを記入頂き、入居前に違うサービスを利用していた場合はそのサービス事業者から情報を取り寄せ、今まで継続していた馴染みの生活が送れるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活支援を行う中で生活記録や体調チェック表、排泄チェック表の情報を基に個々の生活リズムや一日の過ごし方を把握できるように努めている。またそのことを朝夕の申し送りで職員間で情報共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを通して、入居者様の訴えやご様子を定例のスタッフ会議でのモニタリングにて評価を行っている。また訪問診療時、主治医にご様子を伝え処方の調整を行っている。ご家族様が面会時に意見を頂いき、現状に即したケアプランが作成できるように努めている。	細やかなモニタリングによるカンファレンスは、担当者の意見も尊重されて適切なケアプランが作成されています。新たに作られたプランは家族にも説明されています。日々の細やかなケース記録は、ケアプランとの連動性に欠ける面もあります。	ケアプランの見直しを含めた作成には、家族への説明に加えて意見を伺うなど相談の機会を増やしながら、利用者への支援に最適なプラン作りへの取り組みが期待されます。また、折角の日々の記録を生かすためプランとの連動した記載方法の取り組みが期待されます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を1時間おきに個別記録を記入している。職員間で記録の確認を行うと共に朝夕の申し送りにて情報共有に努めている。必要時はそのような時間を実践やケアプランの見直しに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	髪をカットするのにご本人が納得している地域の美容室へ行ったり、お仏壇のお花を買いに行ったり、その時々々の要望に応じて個別対応を行っている。専門外来受診はご家族対応となっているが、仕事の都合等で難しい時は、代わりに対応を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内で開催される夏祭りに参加させて頂き、スタッフと一緒に売り子を行ったり、盆踊りに参加させて頂いたりしている。毎月歌のボランティアが来て下さり、童謡や叙情歌、昭和歌謡曲など多様な歌を楽しまれている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の契約締結時、受診について話し合いを行いご本人やご家族が理解納得された上でかかりつけ医を決めている。月に2回の訪問診療、必要時、緊急時は24時間対応で診てもらっている。	従来のかかりつけ医への受診支援は継続されてきましたが、最近では家族の意向もあり、事業所協力医による月2回の訪問診療と治療によるところが大きくなっています。歯科のみこれまでのかかりつけ医での治療が行われています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度本社看護師が訪問し、身体状況や精神状況について情報共有を行い必要に応じて処置方法や対処方法について相談やアドバイスを受けている。必要時、グリセリン浣腸や摘便、巻き爪の爪切り等、医療行為にて処置を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は当ホームでの生活状況について介護添書を提出し安心して治療して頂けるよう努めている。入院中は約1週間～10日間くらいに1度の頻度で状況を伺うようにしている。ご家族に同意を得た上で医師からの説明時、同席させて頂き、情報共有ができるように努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約締結時、重度化や終末期における対応指針について書面にて説明を行っている。また生命の緊急事態時に備え、私の望む医療・望まない医療処置について記入を頂いている。内容については変更可能な説明を付け加えている。	入居時の当該指針は家族などに十分な説明と同意を得ています。また、リビング・ウイル(生前の意思表示)も家族を含めた話し合いが進められています。現在まで看取りの実例はありませんが、職員によるターミナルケアへのスキルアップが行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルに沿って、いつでも職員が閲覧し対応できるようにスタッフルームの定位置に保管している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年間計4回行っている。その際、地域の消防団、消防署に毎回参加のご協力を頂き指導を受けている。町内会の地域住民も毎回参加のご協力を頂き様子を見て頂き、運営推進会議で一緒に検討やご意見を頂いている。	運営法人としての災害に対する危機意識は、設備の改善や年4回にも及ぶ避難訓練、日ごろの細やかな点検にも靦い知ることができます。近隣の住民の方々の協力も増えつつあり、現在、臨場での役割を明記したマニュアル作りを検討しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を通し、入居者様の生活歴や人格、自尊心を尊重できるよう、職員間でお互いに意識して丁寧に優しい言葉掛けや言葉掛けの工夫を行いながら対応できるように常に配慮し合っている。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを侵さないなど、職員は利用者との暮らしを通して実践に努めています。相手を敬う心で変わる事のない優しい言葉かけをモットーに対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアを通して各入居者様の言葉のみならず、ご様子や仕草、行動から、自己決定しやすいように状況に応じて質問の内容や時と場所に配慮や工夫を行っている。特に排泄の声掛け誘導時や失禁時の処理時に配慮を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間帯や曜日、運動希望の時間帯や場所等、その方のその日の気分や体調、理由に添ってなるべく支援できるように業務を行う時間帯を職員間で協力しながら調整を図っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の入居者様が希望されるように、髪染めやパーマを当てたり、出かける時は薄くお化粧を施したり、その日に着る洋服を選んで頂いたりその人なりに身だしなみが整えられるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性が多いことから家事についてそれぞれの得意分野を見極めながら、その時の状況に応じて一緒に調理を行ったり、もやしのひげ取りなどお願いしたり、一緒に後片付けを行ったりと複数の方が満足していただけるよう支援している。	本社からの献立と食材が調達され、職員による調理で美味しい味付けの食事が提供されています。ユニット間では多少の差があるものの、楽しい会話で笑顔溢れる食事の光景を見ることができます。食後の食器拭きなど手慣れた作業が継続されています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立メニューを作成し、食材の量も計算され配達されているので栄養バランスの取れた食事となっている。水分摂取量は毎日チェック表にて管理させて頂いており、一日に必要な水分が摂れるようになっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアを行なうようにしている。定期的に訪問歯科にて検診を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者様の排泄パターンを排泄チェック表にて把握し、時間おきに誘導や介助を行ったりすることで全員トイレにて排泄を行っている。夜間失禁されるようになった入居者様も時間で誘導するようになってから失禁がなくなっている。	利用者それぞれの排泄パターンに配慮しながら、それとない誘導によりトイレでの自力排泄を支援しています。また、夏季の散歩、冬季間では廊下での歩行訓練や水分量の確保などにより便秘解消に配慮した支援が行われています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者様には、便秘薬を処方して服用して頂いていると併用して牛乳を飲んで頂いたり水分を多く飲んで頂いたりしている。また排泄時には毎回腹部マッサージを行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には必ずバイタルチェックを行い、体調確認を行ってから安心して入浴して頂けるようにしている。その日の気分や理由に添って柔軟に対応できるように、入浴する日や時間帯はご本人に納得して頂いてから対応するようにしている。	体調も考慮しつつ週2回の入浴により、清潔かつリフレッシュできる暮らしを支援しています。大きな浴室での入浴は開放感に満ちて楽しんでいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、見たいテレビの時間がいつもより過ぎていても対応する、眠れない時はスタッフと一緒に過ごすことでその方の特徴や気分、状況に合わせて納得して眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から詳細な説明を受けると共に定期的に服薬のセットを行う時、お薬の説明書の確認を行っている。特に大事なお薬については、重ねて医師から説明があるので服用してからの様子観察に役立っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方は、調理や片付け、お掃除を日課として取り組んでいる。ラジカセで歌謡曲を聴く方、テレビを視る方、歌謡番組を楽しむ方には曜日と時間帯をお伝えしリモコン操作を支援することで個々に楽しまれている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の喫茶店に出掛けお茶を楽しんだり、バスを貸し切りイルミネーションを見学に行ったり、ホテルでランチを楽しむなどしている。外食先では、ゆっくりとお食事を楽しんでいる。外出先では、トイレに近い場所に席を確保して頂くなど様々な面で配慮して頂いている。	近隣にはガーデニングを楽しんでいる住民の方々も多く、散歩での花々の鑑賞は楽しみの一つとなっています。また、カラオケサークル、喫茶店など個人的な趣味の外出にも積極的な支援をしています。年間行事としてドライブによる遠方への小旅行も楽しいひと時となっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先で必要な時、会計まではスタッフが管理させて頂いており、支払いはご本人がスタッフが側で見守りを行うことで行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に添って、ご家族やご友人に電話を掛けることやお手紙の取次ぎの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	理解しやすいようにトイレや浴室、各入居者様のお部屋などにプレートを掲示している。室温や湿度はリビングの時計についているもので判断し調整を行っている。共有空間はゆったりと過ごして頂けるように必要な物以外は置かないようにしている。またリビングには季節ごとに、クリスマスツリーやお正月の鏡餅、節句の物や、お花などを飾って季節を感じて頂けるように工夫している。	広いスペースを有する浴室、介助が容易な浴槽、利用者が寛ぐ居間と食堂は大きな窓ガラスからの採光が優しく包んでいます。居間の出窓には花々などの鉢が並んで彩と香りを楽しんでいます。窓を覆う銀杏の木は季節ごとに変る葉の変化が利用者にとって楽しみの一つとなっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下突き当たりにあるくぼみの窓から外を眺めることができたり、反対側の廊下突き当たりは見通しは良いが、あまり人が来ないなどの場所を利用して独りを楽しまれている。気の合った入居者様同士ではお互いのお部屋でベッドに腰掛けながら談笑しているので、その時はそっと見守りを行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やご家族や親戚との写真、お元気だった頃に自作した小物入れなどを持ってきたりしている。またお仏壇を持って来られ、毎日ご飯とお水、御花を上げられるように支援している。	利用者による個人差はあるものの、馴染みの家具や調度品が整然と並び、安心の暮らしが広がりを見せています。仏壇や家族の写真、趣味の書籍が並ぶなど心地よく過ごせる居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下や玄関、階段、浴室等屋内の壁全体に手摺りが設置されている。またトイレの電灯は人感センサーにより照明されており、歩行器や車椅子と一緒に入っても広く使えるように十分な広さが確保されている。廊下は幅広く車椅子が交差できるようになっている。			